

行政区障害者相談支援連絡調整会議での地域課題検討状況

1. 葵区障害者相談支援連絡調整会議

地域課題の名称	緊急時の受入れ先の確保と既存資源の活用と調整について
<p>地域課題の概要</p>	<p>介護者の入院等の緊急的な受入れについては、短期入所の活用が望まれているが、受給者証は持っていない、使いたいときにすぐに使えず、サービス利用につながらない事例が多い。また、代替案である居宅介護支援や移動支援の活用も考えられるが、障害児者に対応できるヘルパー事業所と人材が少ない。</p> <p>同様の事案については、過去においても課題として提起されているが、具体的な解決策に結びつかなかったため、区連絡調整会議での検討も加え提案することとした。</p>
<p>検討内容</p>	<p>1 「緊急の受け入れ」について事業所が対応しやすい仕組みづくり</p> <p>地域の状況</p> <p>短期入所や施設入所にあたり、所定の健康診断書の提出が必須であるが、事業所によって検査項目は様々で、なおかつ診断の結果が出るまで少なくとも1週間余りを要することから、緊急時に健康診断の項目を全てクリアして入所することは困難である。</p> <p>利用者の中には「かかりつけ医」がなく、緊急の際に受診先を探さなければならない方もいる。</p> <p>特に、重度の知的障がいを持つ方は、体調の不良を訴えることが難しく、日頃から支援が必要なため、健康時から「かかりつけ医」を持ち、定期的に受診することが必要である。</p> <p>また、介護者が不在になった場合には、本人の状況、特性等の把握が困難である。</p> <p>課題1</p> <p><u>「かかりつけ医」を持つことの推奨と健康診断様式の統一化の検討</u></p> <p>課題解決に向けて</p> <p>①あらかじめ短期入所を利用し入所経験を積むこと、各事業所の健康診断の要件を満たしておくことが有効なことを相談支援事業所から助言する。</p> <p>②健康診断の検査項目・様式・有効期間等を市内で統一する。(関係機関・事業所の協議が必要)</p> <p>③短期入所事業担当者から緊急時の対応の困難性、現状について意見を聞き、対応策を検討する。</p>

	<p>課題 2</p> <p>しずおかサポートファイル（県手をつなぐ育成会作成）、<u>すくすくファイル、サポートファイル（静岡市作成）等の支援ツール活用の推進</u></p> <p>課題解決に向けて</p> <p>介護者が不在の場合は、本人情報の聞き取りが困難であり、生育歴、受診歴、サービス利用歴の確認が出来ない。上記の支援ツールはこうした情報が網羅的に記載できることから、緊急時の対応策の一つとして活用を推進したい。</p> <p>なお、同ツールはそれぞれのホームページからダウンロードできるが、各家庭でのIT環境に差異があり情報格差もあることから、家庭の状況に合わせ支援する必要がある。</p> <p>2 既存の福祉資源の有効活用</p> <p>地域の状況</p> <p>短期入所事業については、利用が土日に集中するばかりでなく、様々な理由で緊急入所的に長期的に利用（ロングショート）されている方もあり、短期入所が必要な時に利用できない。</p> <p>また、精神障がいを持った方が不穏になった場合、自傷・他害等で警察通報・検察通報以外は、受診を勧めるなどの介入ができない現状がある。</p> <p>課題 1</p> <p>①既存の福祉資源の有効活用が図られていない。 ②平成 26 年 4 月以降の重度訪問介護制度に対応したヘルパー事業所が整備されていない。 ③精神科訪問看護等のアウトリーチのあり方を検討する必要がある。</p> <p>課題解決に向けて</p> <p>①静岡市の単独事業として、重症心身障害児者を対象としたライフサポート事業が制度化されているが、他の障がい分野にも同様の事業が制度化できないか検討する。（既存の通所施設等を利用し、短期入所サービスを実施、緊急時のヘルパー派遣） ②重度訪問介護の対象枠の拡大に伴うヘルパー人材の確保策の検討</p>
<p>今後の対応</p>	<p>障害者支援施設・短期入所事業所との連携</p> <p>…3 月、4 月の葵区連絡調整会議に参加を要請、課題を検討。</p> <p>〔 3 月 11 日（火）障害者支援施設（知的）との連携会議実施予定 4 月 8 日（火）障害者支援施設（身体、医療型障害児入所施設、療護施設）との連携会議実施予定 〕</p>

備	考 ※ 障害者支援施設、精神科病院からの地域移行・地域定着支援の活性化を検討する。
----------	---